

「突風を静める」

2023年04月12日

ある日のこと、イエスが弟子たちと一緒に舟に乗り、「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われたので、船出した。渡って行くうちに、イエスは眠ってしまわれた。突風が湖に吹き降ろして来て、弟子たちは水をかぶり、危なくなった。それで、近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、このままでは死んでしまいます」と言った。イエスが起き上がって、風と荒波をお叱りになると、静まって風になった。イエスは、「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と言われた。弟子たちは恐れ驚いて、「この方はどなたなのだろう。命じれば風も水も従うではないか」と互いに言った。（ルカ 8：22～25）

主イエスは、新しい宣教地を目指し、「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われ、弟子たちと一緒に船出された。湖はガリラヤ湖である。主イエスは渡って行くうちに、舟の中で眠ってしまわれた。ところが、突風がガリラヤ湖に吹き降ろして来て、弟子たちは水をかぶり、舟は沈みそうになった。ガリラヤ湖は東西 13 km、南北 21 kmの大きさで、さつまいものような形をしている。この湖の特徴は、水位が地中海の海面より 200 m以上も低く、すり鉢の底に水がたまっているような湖である。そのため、晴れていても、突然嵐が見舞うことがある。風は水平ではなく、すり鉢の底に向かって、上から下に吹き降ろしてくる突風である。主イエスと弟子たちの乗った舟に、ガリラヤ湖特有の嵐が襲って来た。恐れた弟子たちは、眠っている主イエスに近寄って起こし、「先生、先生、このままでは死んでしまいます」と言った。弟子たちは、ペトロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネなどで、彼らはガリラヤ湖の漁師である。幾度も、ガリラヤ湖の嵐は経験し、逃れる術は知っていたはずである。主イエスはナザレの大工の息子で、ガリラヤ湖の嵐については、経験がない。それなのに、弟子たちは、「先生、先生、このままでは死んでしまいます」と、主イエスに依存し切って、自分たちでは対処すべき手立てはないと言っている。弟子たちの言葉を受け、主イエスが起き上がって、風と荒波をお叱りになると、突風は静まり、風になった。そして、「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と、弟子たちの不信仰を指摘された。弟子たちは恐れ驚いて、「この方はどなたなのだろう。命じれば風も水も従うではないか」と互いに言い合った。

この奇跡は、史的事実として起きた奇跡ではない。著者ルカは、「この方はどなたなのだろう。命じれば風も水も従うではないか」と疑問の言葉で問いかけ、この方は、嵐を静める力を持つキリストであると証言する彼の信仰告白である。この告白には、下記のような内実が込められている。イスラエル人は、山は神が臨在する聖なる場と受け止めていた。一方、海（湖）は混沌とした恐怖として受け止めていた。ガリラヤ湖の突風は、時代のカオスである。そして、舟は教会である。舟である教会は、時代の嵐に遭遇し、沈没しそうである。弟子たちは恐怖におののく。この時、神の子であるキリストは、風と荒波に向かって命じると、嵐は収まり、風になる。キリストはカオスを制し、教会の舟を守り、進めるように導いてくださる。教会は幾多の迫害を受けて来たが、キリストが共におられて、その迫害を乗り越え、平安をいただいていた。この経験が、突風を静めるキリスト告白を生んだのである。私は、この奇跡物語が大好きで、何度、嵐を風にしてくださったキリストに救われて来たかを思う。嵐の最中にあっても、いつも共にいてくださる主イエスを見つめ、信頼していることが「信仰」である。そこに、福音に与る平安がある。